

大学新入生の BMI と生活習慣因子との関連分析

中嶋恵美子^{1), 2)} 細井 薫^{1), 3)} 松尾 邦浩⁴⁾
河村 彰^{1), 5)} 森戸 夏美⁵⁾ 佐光 英人⁵⁾
朔 啓二郎^{1), 3), 5)}

- 1) 福岡大学医学研究科臨床研究科学
- 2) 国際医療福祉大学福岡看護学部
- 3) 福岡大学産学官連携研究機関「心臓・血管研究所」
- 4) 福岡大学筑紫病院循環器内科
- 5) 福岡大学医学部心臓・血管内科学

要旨：「福岡大学魅力ある学士課程教育支援－命の大切さを実践する」のプログラムは、すべての人間にとって重要なことであり、大学新入生にとっても同じことである。本研究は、大学新入生が自ら健康管理することを目的としたものである。

方法：「健康増進のための生活習慣及び健康に関するアンケート調査」によって得られている 2010 年から 2012 年に福岡大学 1 年次生 9,564 人の集計データを用いて、「BMI」と「肥瘦意識」「睡眠」「運動」「日常生活」などの生活要因の間で統計分析（多重回帰分析など）を行った。

結果：低体重の学生は、「運動習慣がない」（男 $p < 0.001$, 女 $p = 0.028$ ）, 「身体活動の励行をしていない」（男 $p < 0.001$, 女 $p < 0.001$ ）, 「規則的な食事をしていない」（男 $p = 0.009$, 女 $p = 0.095$ ）が男女ともにそれぞれ有意な関係が示され、なお、低体重の女子学生は特別の肥瘦意識も認められた。スポーツ科学部の学生は、他の学部学生より高い BMI 値であった。また、スポーツ科学部の女子学生は、他の学部と同様に「ストレス」と相関（ $p = 0.025$ ）があり、ストレスがある学生が高い BMI を示した。

考察：低い BMI にも関わらず男女間で異なった肥瘦意識を持っており、スポーツ科学部の学生は、個々で異なった適正体重意識を持っている。従って、学生および教職員は、これらの結果を踏まえて学生の生活習慣の管理にあたる必要がある。

キーワード：大学新入生, 生活習慣, BMI, 健康管理